

第 23 回静岡県新型コロナウイルス感染症対策専門家会議（要旨）

開催日時：令和4年7月11日（月）
18時開始、19時47分終了
出席委員、顧問：20名中19名

★協議事項1-① 今週の国の評価レベルについて

（事務局案）

今週の国の新たなレベル分類は、『レベル1』から『レベル2』へ引き上げ

※参考：7月11日時点指標

1. 新規感染者数について2週連続で前週比増（7/3 1.45→7/11 2.51）
2. 入院患者数が115人（基準：100人以上）
3. 病床占有率が20.8%（基準：20%以上）
4. 1週間の新規感染者数人口10万人当たり178.2人（基準：100人以上）

<委員意見等>

レベル2にあげる・・・17名、レベル1のまま維持・・・2名
対策専門家会議としては『レベル2に上げる』とする。

○主な意見

【レベル2にあげる】

- ・レベルを上げておかないと病床の数を減らすという通知を出していたのに止める理由として病院側に説明が付きづらい。
- ・理由は、医療ひっ迫。病床はあまり埋まっていないようだが、診療所はひっ迫してきている。

【レベル1を維持】

- ・接種状況もあるし、明らかに重症度は下がっている。医療もひっ迫していないという状況で、アクションにつながらないレベルアップなのかなと思う。
- ・レベルを上げることによって感染が減ったということがはっきりしないと思う。レベルが上がることで非常に苦しんでいる人がいる。感染を抑えることは不可能であるというふうに認識すべき。諸外国はそういう認識になっている。変異株がきたら増える。その間だけもし行政がやらなければならないとしたら、必要な医療が受けられなくなる人が出ないようにすることに尽きると思う。

★協議事項 1-② 病床確保について

(事務局案)

現状：病床フェーズ3（629床）から病床フェーズ1（446床）に引き下げ中

※ 7/7 現在 565床

今後：病床フェーズの引下げを一時中断

<委員意見等>

全委員の総意で、病床の引下げを中断し、現在の病床数（550床程度）を維持。

○主な意見

- ・ 積極的に減らすというよりは現状維持のほうが妥当なのかなと考える。
- ・ レベル2に上げなくてはならないくらいに患者は増えているが入院しなくてはいけない患者は増えていない。ベッド数を闇雲にいじってほしくはない。コロナの病床数を変えることで普通に入院してくる患者への影響もある。
- ・ 今回のBA.5についてはBA.1やBA.2に比較して感染力が非常に強く、免疫逃避をする。重症度については今のところ不確定ということが現状。病床を増やすことは必要ない。軽症は多いとは思いますが、感染力が強いので現状の病床数は維持した形でここ2～3週間様子をみて判断していくことが適切だと考える。

★協議事項 1-③ 県民への呼びかけについて

(事務局案) <感染拡大期の呼びかけ (案)>

- ① 飲食の会合は、少人数、短時間、認証店で！
- ② ワクチン3回目未接種者に対するワクチン接種検討の更なる呼びかけ
⇒ 特に、旅行先や帰省先などで、高齢者や基礎疾患のある方と行動を共にする場合には、ワクチン接種を！
- ③ 引き続き熱中症予防に留意したうえで適切にマスク着用
- ④ 人が集まるところでは適切に換気
- ⑤ 手洗いや手指消毒の励行
- ⑥ 鼻水、のど痛、熱等が出たらすぐに休んで受診を！

<委員意見等>

全委員の総意で「行動制限は不要」、「基本的な感染対策をしっかりと継続」。

○主な意見

- ・ 県民の方には、これまで2年半ほどずっとやってきた感染対策をしっかりとやっていただく。病院や行政が医療体制についてはしっかりと確保してあるのでその辺りは安心してもらってよいが、ただ感染しないように気をつけていただきたい。行動制限はすべきではない。
- ・ 現時点では、コロナについては致死率がインフルエンザと同様程度まで下がっていな

い。よって、一定数の感染者を許容することまでには至っていない感染症だと認識してもらい必要がある。去年より咽頭結膜熱、水痘、手足口病、伝播性紅斑、ヘルパンギーナなどは全体的に増えている。これは、コロナの予防の基礎的なものが抑えてくれていた。今そういう状況でなくなってきたのが一般の感染症の爆発を見ても分かる。県民の方にとにかく今が大事だということを丁寧に説明して、公衆衛生上基本的なところをもう一回やってもらいたいを説明することが大事。

- ・行動制限は本質的に人間としての権利をかなり制限してしまうのでそれはあまり必要なことではない。2年間経過したが、必ずしも正しい感染対策が行われているとは限らない。そういったところを徹底するということが重要。ワクチンを打っていても感染する例はいくらでもあるし、あくまでも重症化しないという意味でワクチンを打ってもらうということが重要だというメッセージは伝えていただきたい。
- ・県のホームページ上に、レベル2になると飲食店の時短営業等を行うと記載されている。ホームページの記載を改めないと県民の方たちはレベル2になると様々な行動制限があるので大変だとなる。県の対応としてこれは変えたほうがよい。
- ・未接種者あるいは3回目、4回目の接種の対象者にワクチン接種を呼びかけることが必要。
- ・もはやこの感染症が2類相当の感染症でなくなっているところを2類と同じように対策しないといけないことが原因で、生まれている数々の医療現場のひっ迫というのがある。その大前提は国の方で変えてもらわないとどうにもならない。そこは県として国に意見を出すべき。
- ・制度の問題が1番。法的な見直しをインフルエンザ以下、風邪にさせていただくということが大前提。国に強く要望していただきたい。
- ・これまでの2年間の感染対策等について、レベル2に上げたからと言って目新しいことはない。2メートル以上間隔が空いても感染した時に何がいけなかったのか考えた時に換気不全だったり、大声でのおしゃべりだったりということがわかっている。行動制限する必要もないし、会食してもらってもいいが、その時に感染しないような方策をこの2年間やってきて県民の方がわかっているので今一度強調して県民の方に伝えるべき。
- ・レベル2に上がると、不安な人も無料検査ができるという点は強調していただきたい。
- ・熱中症対策とマスクを含めたコロナ対策の両方がバッティングした時、どちらを優先するのかというと、コロナは感染しても重症化しなくなってきており、熱中症のほうが重症化するので、そういう時は熱中症対策の方を優先しましょうということを付け加えてほしい。
- ・これだけ経験してきたので360万人の県民は賢明だと思う。感染拡大し始めているというのは非常によいメッセージになるはず。マスクの着用、3密の問題、手洗いの励行、ワクチン接種。これをしっかり訴えるしかない。現時点のオミクロン株からいってまん延防止措置等の制限は必要無い。

★協議事項 2 4 回目のワクチン接種について

(事務局案)

感染した場合の重症化予防を目的とし、3回目接種を受けて5か月以上経過した60歳以上の者又は18歳以上60歳未満で基礎疾患を有する者を対象に4回目のワクチン接種を実施。

≪接種見込み≫

7月から8月にかけてピークの見込み。各市町の接種体制は最大50万回/月程度。

接種時期は9月末まで。10月以降は国の方針未定。

≪対象者拡大に係る動き≫

本県としては、中部圏知事会 (R4.6.23) において『医療従事者や高齢者施設等の従事者を4回目接種の対象に加えること』を要望している。

<委員意見等>

ワクチン接種の推奨については、大多数が賛成。

○主な意見

- ・ 医療者に対し、全員必須ではないがクラスターが発生し始めた施設や病院においては 4回目接種を医療従事者や施設職員にすることを認めてほしい と思う。 効果が短期でもクラスターを早期に収束できるような一つのツールにはなるのではない と思う。
- ・ 3回目、4回目の接種の重症化予防効果にポイントを絞るとしたら 重症化予防効果がどの程度、どのくらいの期間維持されるのかを明らかにする必要がある と思う。
- ・ 若い方たちは自分たちが感染しても重症化しないので打たないという方が結構いるので、 若い方に向けてワクチンを打ちましようと呼びかけるのはよいのでは。

★その他の意見

- ・ 2類相当は現前として存在している。これがどのタイミングでどうなるかということはまだわからないが、今までなかったような新しい基準に移ると思う。いくら県が言っても、 インフルエンザ並みや一気に緩むことは多分ない だろう。
- ・ 保健所のひっ迫については、県の判断である程度抑えられることができるのであれば今からでもやっておいた方がよい。
- ・ 本会議の目的は360万人の県民の感染者数を少しでも減らすという点。そのために公衆衛生学的にどうすればいいのかということについてしっかり議論してほしい。